

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	商学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)―(専門)

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学習成果を図る指標としてのGPAおよび/または平均点を検証し、それらの活用方法(例えば、奨学金推薦要件、研究演習所属要件、研究科進学要件など)を改善する。	→GPAおよび/または平均点の基本統計量(平均、標準偏差など)の推移	C	C	B	B	B
2. 商学部の各教員が用いている教育効果の測定方法や成績評価の仕組みを共有し、客観的な評価方法を構築する。	→指標開発活動に関する教授会報告の状況、研究会の開催件数および提言・実施状況など	B	B	B	B	B
3. 単位認定のさらなる適正化を図り、MDSを積極的に提供する。	→単位認定の理由と件数、学士(商学)としての卒業生数、MDSの受入者数・修了者数	B	B	A	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年度からの新カリキュラム実施にともない、研究演習所属要件をより厳しくし、2年次修了時点での単位数が基準を満たさない場合は、研究演習に所属できない規定を設けた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 研究演習の指導教員を選択する際(具体的には、2年次秋学期開始時点)、各教員からも履修要件を確認されるため、学生自身も十分意識した履修計画を行っている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 履修単位数の緩和条件としてGPAを活用しているが、例えば、各学期のGPAあるいは通算のGPAに応じて、履修計画の検討を行う(科目ナンバリングとのリンク)ような仕組みの導入も検討される。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 必修科目、および一部の選択必修科目については、講義内容・テキスト・成績評価方法を統一し、あるいは試験も統一内容で実施済み。また、ファカルティ・ディベロップメント委員会主催の研究会などを通じて、専門科目の学習で不可欠な知識等に関する意見交換・情報共有を定期的実施している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 部分的ではあるが授業内容の統一を図ったことで、専門科目への橋渡しが改善された。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 各コースのカリキュラム・マップや科目ナンバリングと併せて、専門科目間の関係性などを理解する仕組みの検討も必要である。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 単位認定については2012年度からの新カリキュラムで、従来より厳しい基準を設け実施している。MDSは例年数件の受入れを行っており、また当該学生が積極的に商学部での学習に取り組めるよう、研究演習履修に関しても配慮している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 新カリキュラム導入後の学生は現在3年生のため、効果測定を行うには十分なサンプルは存在しないが、MDS履修学生に関しては、研究演習を含めて問題なく本学部での学習に参加できている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 単位認定については、語学科目だけでなく常に制度変更や資格名変更が行われるため、定期的に検討または情報収集を継続する仕組みを確保する。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	